平成２４年１月１日発行

平成23年度　No. 8

がんばろう日本

キャベツにゅーす

発行　●県域キャベツ連携推進会議
事務局　●広島県農林水産局園芸産地推進課
〒730-8511
広島市中区基町 10-52
TEL（082)513-3592
●JA 全農ひろしま資材農産部農産課
〒739-2208
東広島市河内町入野 1631-13
TEL（082)437-2320

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新年の挨拶に先立ち，昨年の東日本大震災で亡くなられた方々に対し謹んで哀悼の意を表しますとともに被災された皆様方，東日本だけでなく放射能による影響を受けられている全国の皆様方に対し，心よりお見舞いを申し上げます。そのような状況の中，国内外，地域などの様々な取組に対して「絆」の大切さを実感できた１年であったと思います。

県域キャベツも生産者の皆様が主役になり「県域の絆」や「地域の絆」を大切にし，取組を続けてこられた結果，昨年は夏季の腐敗症や定植苗の枯死等の課題を克服できました。また皆様の積極的な面積拡大により産地規模 45ha まで拡大しました。これまでの皆様の取組に感謝申し上げます。

県域キャベツ連携推進会議では H24 年度 60ha，H25 年度 100ha の目標を掲げており，全力で取組を続けてまいります。今年も皆様のご理解ご協力引き続きよろしくお願い申し上げますとともに新しい年は希望にあふれる年になるように祈りたいと思います。

事務局代表　JA 全農ひろしま資材農産部農産課長　仁城明彦

●　秋作の実績について　（前編:生育状況）

今年は定植期や生育前半にあたる 8～9 月にかけ比較的降雨があったこと，降雨不足の際には随時スプリンクラー等でかん水を行ったこと等により，昨年のように定植したほ場が全て枯死するようなほ場はほとんどなく，生育後半の結球に重要な役割を持つ外葉形成がスムーズに進みました。

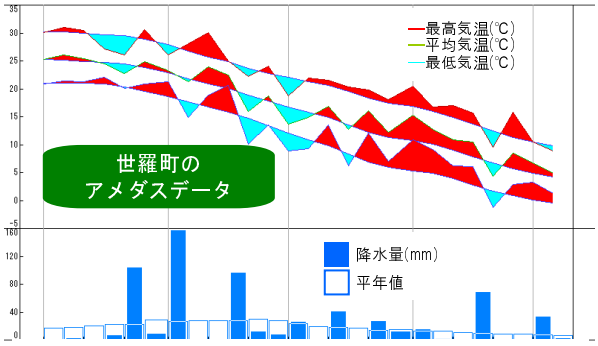
逆に生育後半の 9 月下旬～10 月上旬にかけての急激な気温低下により，結球が進まず，出荷開始が予定より 1 週間程度遅れました。また台風等による降雨も頻繁にあり，明きょをきちんと設置できていない等排水対策が不十分なほ場では，降雨後の停滞水による根傷みのため，十分に結球が進まず，十分な収量が得られないところもありました。

また 10 月下旬～12 月上旬の記録的な暖かさにより，11～12 月出荷予定のものを 1 週間以上早く出荷せざるを得ず，その結果 12 月上旬で概ね出荷が終わりました。

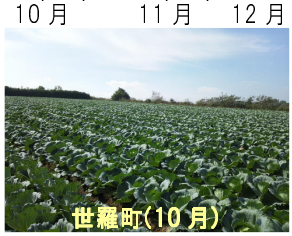
病害虫の発生について，ハスモンヨトウは昨年ほどの発生はないものの防除適期を逃したほ場では結球内部に食い込む被害が見られました。また 11～12 月にかけ，記録的な暖かさにより菌核病の発生適温である20℃程度が維持され，被害が多発しました。病原菌は土壌中で生き残り，来年の病害発生の伝染源になるので，注意が必要です。

排水対策，適期作業や基本管理を徹底できたほ場では，春作に続き単収 6t/10a 以上を確保したところもありました。

次号では　後編:販売状況をお送りします!
乞うご期待！



北広島町芸北(9 月)


世羅町(10 月)

●　地域で導入されている新技術（第１回）

・　２条千鳥植え用汎用移植機

世羅町で導入されている機械で，2 条同時に定植でき，1 条用に比べ約 2/3 に作業時間を短縮できます。

また乗用タイプで，日除けの傘も設置できる上，セルトレイ 13 枚分の予備苗を搭載でき，さらに省力化が期待できます。

生産者紹介（第７回）

レインボーファーム神石高原（株）
（神石高原町小野）

今回は，神石高原町のレインボーファーム神石高原(株)を紹介します。

レインボーファーム神石高原(株)は，平成 19 年 10 月に設立(横山岳郎　代表取締役社長)した集落法人です。構成員 6 名，集積面積 30ha，水稲を中心にキャベツ，ぶどう，小麦等を栽培しています。特にキャベツとぶどうの大規模栽培を取り入れ，経営の高度化に積極的に取組んでいます。

法人事務所は神石高原町小野にありますが，ほ場は標高 300～550m と標高差のある町内各地に分散しており，その標高差を利用してキャベツの周年出荷に取組んでいます。キャベツ栽培は 3 年目ですが，すでに栽培面積 4ha と県内を代表するキャベツ栽培法人となっています。

法人の担い手の清水さん

技術向上による単収アップを当面の目標においていますが，5ha までは面積拡大したいと考えています。

品質確保のため
トレーラ型冷蔵庫を導入

県内でも先駆的取組でした。

これからの管理

現在，世羅町や北広島町千代田，神石高原町等の広島県中部地区で冬作(1～3 月収穫)が試験的に取組まれています。10 月下旬～12 月上旬にかけての暖かさにより，1 ヶ月生育が早く進んでおり，収穫適期をすでに迎えています。現在の状況から，**概ね広島県中部地区での冬作導入は可能**だと思われます。

冬作のこれからの管理については，これまでの暖かさにより菌核病の菌密度が高くなっており，2 月以降多発する可能性があるので，**定期的な予防**が必要です。

また，2 月に入ると春作が本格的に始まります。目標単収の確保や計画生産･計画出荷の実施により経営を安定化させるため，1 月は春作の作業全般について計画作成や役割分担等をきちんと行い，万全の体制を備えておきましょう。

編集後記：
今年は辰年。龍のように面積を飛躍的に上昇させ，ドラゴンズのように強い産地を一緒に作りましょう!（カープも今年こそは優勝してくれるはず）　（家族とカープを愛している TK）

県域キャベツが目指すこと（実需者の声から）

今秋作は 10 月中旬～12 月中旬までの契約を見込んでいましたが，10 月下旬～12 月上旬の暖かさで予想以上に球肥大が進み，12 月初旬には契約を終了せざるを得ない状況となりました。実需者ニーズの「最低でも 12 月中旬までの契約的出荷」に応えられませんでした。全国的に見ても 12 月初旬～中旬にかけ，秋作と冬作の端境が起こっており仕方ない面もあります。

秋作･冬作において実需者は，10 月中旬～12 月下旬は現在の産地(世羅･神石･千代田･東城)，1～3 月は沿岸島しょ部と冬作が可能な産地(世羅･神石等)のリレー出荷による**長期安定契約**を切望しています。

今年も各地を飛び回り，関係機関や生産者の皆さんと協議を重ねて早期に県域リレー産地を実現できるよう頑張りますので，皆さんも面積や作期拡大の前向きな検討をお願いいたします。

尾道市因島と江田島市の冬作キャベツ

○ 出荷期間は 12～3 月，両地区とも約 10ha，歴史のある産地。
○ 認定農業者の補完品目とし，高い技術力により安定出荷(5,000 株/10a 以上の定植，単収 6t 以上)
○ 機械化はされていないが，生産者の作業効率は非常によい。

尾道市因島

県域キャベツ連携推進会議 生産者大会(先進地視察)

日時：平成 24 年 1 月 16 日(月)～17 日(火)
場所：JA 大阪泉州管内キャベツほ場
　　JA 全農青果センター(株)大阪センター

JA 大阪泉州のキャベツ

大阪お好み焼きに欠かせないキャベツを関西地方を中心に 12～4 月にかけて供給しています。

大阪府南部の泉佐野市を中心に，水田裏作として，約 300ha の産地を形成しています。大阪お好み焼きや市場向けの生食用として評価の高い『松波』を推奨品種とし採用しています。

『松波』は生育揃いや病害抵抗性で多少難点があるとされていますが，JA 大阪泉州管内の生産者の高い技術力により，安定生産されています。

キャベツにゅーす　広島　検索